

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 「学習の絆」「クラブの絆」「行事の絆」の三つの絆を大切に、バランスの良い人間形成に努め、生徒一人ひとりが生き生きとする学校づくりをめざす。
- 1 これからの社会を生き抜く「強さ」と「優しさ」を併せ持つ幹の太い生徒、そして高い目標を掲げ、その目標に向けて日々努力する生徒を育成する。
 - 2 提案型教員集団を形成し、全教職員一丸となって特色づくりに努め、南河内の普通科改革校としての地歩を固める。
 - 3 保護者・地域との連携を密にし、求められる教育活動を展開することにより、地域に愛され信頼される学校づくりに取り組む。

2 中期的目標

1 幹の太い生徒の育成および質の高い授業の実践

幹＝人間力（挨拶、忍耐力、思いやり、コミュニケーション力、問題解決力、洞察力、人間関係力、学力、規範意識、成功体験、自尊感情、自立心）

- (1) FCK(Future Center Kanan)、自治会、生活指導部、学年、人権教育研究委員会等が連携し、全ての教育活動を通して、幹の太い生徒の育成に努める。
 - ア 学校内外でのさまざまな教育活動を通して、成功体験を積み、規範意識の向上・支えあう集団づくり・自尊感情の高揚を図り、人間力を育成する。
 - イ 挨拶の励行、遅刻・欠席の減少、身なりを正すなど生活規律の確立に取り組むことにより、高い規範意識を持ち、場を理解し、自らの意思で判断し行動できる生徒を育成する。
 - ウ 人権教育を推進することにより、いじめ・差別をしない、させない意識を醸成し、さらに安心・安全な学校づくりに努める。
※生徒向け学校教育自己診断の「校則は必要 (H27: 79%)」「将来の生き方について考える (86%)」「行事は工夫されている (83%)」「命やルールの大切さを学ぶ (76%)」「人権の大切さを学ぶ (75%)」の項目を毎年 2%ずつ引き上げる。また、「部活動に積極的に参加」の項目 90% (H27: 90.5%) 以上を維持する。
- (2) 「わかる授業」から「充実した質の高い授業」をめざし、授業公開・授業評価等を通して、授業改善に取り組む。
 - ア 授業規律を確立し、授業への集中力を高めることにより、授業の質のさらなる向上を図る。
 - イ 習熟度別・進路別少人数授業を拡充し、一人ひとりの生徒に対して、きめ細かな授業を展開する。また、教員相互の授業見学、研究協議及び保護者・地域に授業を公開することにより、さらに質の高い授業をめざす。
 - ウ 授業アンケート・学校教育自己診断等における生徒の声をしっかりと把握し、適宜教員にフィードバックを行い、授業満足度の向上に努める。
※生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすい (H27: 65%)」「授業の進度は適切 (69%)」の項目を毎年 3%ずつ引き上げる。
※授業アンケートの「興味・関心を持つことができた (H27: 3.03)」「知識や技能が身に付いた (3.07)」の平均を平成 30 年には 3.15 以上にする。
 - エ 平成 27 年度学校経営推進費事業と P T A・同窓会の支援により全学年の授業教室に設置した短焦点プロジェクターと書画カメラなど ICT 機器の積極的な活用を進める。また、さまざまな教育ツールを活用することにより、生徒の興味・関心をさらに引き出す授業を展開する。
※生徒向け学校教育自己診断における「教え方の工夫 (H27: 72%)」の項目を毎年 2%ずつ引き上げる。
※ICT 機器を活用できる教員 (H27: 80%) を平成 29 年度には 100%にし、平成 30 年度以降継続する。

2 特色づくりの推進による普通科改革校としての地歩固め

- (1) 近年取り組んできた事業をさらに充実させることにより、生徒一人ひとりの夢を実現に導く。また、中学生が入学したい学校づくりをめざす。
 - ア e コース (esperanza: 希望、education: 教育) コースにおける体験学習・高大連携・発展教科の充実、生物医療系生徒の大学での看護系授業受講や 2 年生全員参加の大学での講義受講などにより、高い進学意識をもつ生徒を育成する。
 - イ 全学年で勉強合宿を実施する。また、土曜自習室・平日講習・サポート講習を充実させ、学習時間の増加を図るとともに、家庭学習を促進する。
※平成 30 年度には国公立大学 15 人、関関同立 130 人の合格をめざす。(H27: 国公立 5 人、関関同立 108 人)
 - ウ 実用英語検定資格を取得することにより、大学受験に役立たせ、また、グローバル社会を生きる基礎力を養成する。
※平成 28 年度は 1・2 年生全員受験とし、次年度以降も継続する。また、3 年生未取得者には受験を推奨する。
 - エ 特別講演会に国際的に活躍をしている人を招聘し、「夢をあきらめない」をテーマに講演を実施することにより、自らの将来を主体的に考える生徒を育成する。また、学校行事やクラブ活動等を含め校内外の様々な教育活動に積極的・主体的に取り組む生徒を育成する。
※生徒向け学校教育自己診断の「学校満足度」(H27: 82%) を毎年 3%ずつ引き上げ、平成 30 年度には 90%以上をめざす。
- (2) 国際交流および国際理解教育を推進することにより、グローバル人材および国際貢献に取り組む生徒の育成を図る。
 - ア 交換留学や海外視察団の受け入れ、海外語学研修を積極的に行い、異文化理解と国際感覚を高めるとともに、コミュニケーション能力、問題発見・解決能力などの育成を図る。
 - イ エコキャップ運動を継続し、環境問題への理解を深め、ポリオワクチンの供給などを通して、国際貢献に取り組む生徒を育成する。
- (3) 地域の人材・施設を積極的に活用し、幼稚園・小学校・中学校・大学との連携を活発に行うことにより、生徒の自己有用感・自尊感情を醸成する。
 - ア 生徒主体の河南講座の充実を図る。また、運動系・文化系クラブによる中学生との合同練習・合同大会の実施や地域の公演活動等に積極参加する。
- (4) 南海トラフ大地震を想定した避難訓練マニュアル・大地震発生時アクションカード・生徒引き渡し概要を充実させる。また、安全で安心な校内環境の整備に努め、災害に強い学校づくりに取り組む。
※生徒向け学校教育自己診断における「災害時の行動を理解している」の項目を毎年 3%ずつ引き上げる。(H27: 70%)

3 生徒一人ひとりの実態に即したキャリア教育体制の確立

- (1) 全生徒・保護者との面談を拡充し、家庭訪問を積極的に行うことにより、生徒一人ひとりの実態把握に努める。また、中学校訪問・中高連絡会を実施するとともに、教職員研修を通して「生徒・保護者と向き合う」集団づくりに努める。
 - ア 課題を抱える生徒の支援のために、支援委員会と学年、関係機関等との連携を深め、生徒情報の共有化と組織的な対応を促進する。
※生徒向け学校教育自己診断の「相談に応じてくれる先生がいる (H27: 55%)」「担任以外にも気軽に相談できる (53%)」の項目を毎年 3%ずつ引き上げる。
- (2) 進路・学年・キャリアカウンセラーが連携し「キャリア教育ワーク集」を充実させ、3 年間を見通した系統的なキャリア教育体制を確立する。
※生徒向け学校教育自己診断の「進路の情報をよく知らせてくれる (H27: 81%)」「進路について考える (86%)」の項目を毎年 2%ずつ引き上げる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>学校教育自己診断結果は、ここ数年肯定的回答が増加傾向を示していたが、今年度は生徒結果 25 項目中 17 項目で減少、保護者結果においても 20 項目で 15 項目が減少という結果であった。この結果は真摯に受けとめ次年度の学校運営に生かしていく。</p> <p>【学校生活について】</p> <p>生徒は「学校へ行くのが楽しい (80%)」「行事は楽しく行えるよう工夫されている (83%)」「河南高校の生活に満足している (79%)」「部活動に積極的に参加している (91%)」、保護者は「学校の雰囲気良く、生徒がいきいきしている (88%)」「子どもは学校生活を楽しみにしている (85%)」「学校行事に積極的に取り組んでいる (91%)」「子どもの高校生活全般に満足している (88%)」と高い数値を示しており、行事や部活動に熱心に取り組んでいる生徒が多く、保護者も同様の意見である。今までに取り組んできている様々な取組みをさらに推進していく。</p> <p>なお、生徒の「相談に応じてくれる先生がいる (52%)」「担任以外で気軽に相談できる先生がいる (30%)」と生徒支援の面での肯定的回答が低い。支援委員会を中心に現状に即した教育相談体制の構築を進める。</p> <p>【学習について】</p> <p>生徒の「授業進度は適切である」では 71%と 2%上昇したが、「授業はわかりやすい (61%:4%減少)」「補習や講習が充実している (62%:7%減少)」「教え方の工夫 (66%:6%減少)」、保護者の「授業がわかりやすく楽しい」といっている (48%:4%減少)と厳しい意見をいただいている。授業アンケートの結果も踏まえ、授業改善への議論を推し進める。また、ICT 機器を活用したさらなる授業の研究、及び新学習指導要領の改訂、大学入試制度改革を見据え、アクティブラーニングに関する研修、研究を進めていく。</p> <p>【進路指導について】</p> <p>生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある (82%:4%減少)」「進路についての情報を良く知らせてくれる (78%:3%減少)」と減少している。3 年間を見通した進路指導計画を実践しており、進路結果は年々向上している。進路についての周知方法を再考する。</p> <p>【人権教育等について】</p> <p>「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある (75%)」「人権の大切さについて学ぶ機会がある (75%)」「河南高校では人にかかわられていやな思いをしたことはない (75%)」と肯定的回答が多いが、啓発運動の推進や人権研修内容等の検討を行い、さらなる人権意識の向上を図る。</p>	<p>第 1 回 (平成 28 年 5 月 25 日)</p> <p>平成 28 年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生が入学したい学校づくりをめざすという目標を掲げているが、今年度の受験者数はどうなっていたか。今後も中学生の行きたい学校をめざして、さまざまな取り組みを期待する。 ・実用英語検定について、監督者及び費用等に関する質問あり。 ・クラブ活動への加入率はどうなっているか。 ・プロジェクターが全教室に設置されているが、活用率や授業の進め方に変化は見られるのか。 <p>第 2 回 (平成 28 年 10 月 19 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回授業アンケート結果が昨年より低い値になっているが、分析等を行っているのか。平均値が極端に低い教員に対しての指導を期待する。 ・学力生活実態調査では、1 年生の英語の成績が大きく伸びており、2 年生の数学もやや伸びている。 ・1 年生の学習時間が平日、休日とも前回の半分に減少しているため、学習時間を確保する取り組みが必要である。 <p>第 3 回 (平成 29 年 1 月 25 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 2 回授業アンケート結果は第 1 回より 0.01 ではあるが向上している。この結果を考察し、次年度の授業に活かしてほしい。 ・学校教育自己診断結果が昨年よりもダウンしている項目が多いが、学年毎の分析が大切である。丁寧な分析をお願いする。 ・服装に関する回答でカーディガンの着用を求める声があるが、制服については、その学校の象徴でもあるので大切にしてほしい。また、周知の仕方を工夫する必要があると思われる。 ・保護者との連絡が密でないというのが気になる。メーリングリストを活用し、家庭との連絡を密にすることも大事である。 ・進路結果では、昨年度より一般入試での受験者が増えているとのことなので、良い結果を期待する。 ・不登校生徒が増えているとのことだが、どのように取り組んでいるのか。 ・次年度は「自己実現の満足度」をキーワードにした学校運営を期待する。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 幹の太い生徒の育成および質の高い授業の実践</p>	<p>(1) 幹の太い生徒の育成 イ 生活規律の確立 ウ 人権教育の推進</p> <p>(2) 充実した質の高い授業の実践 ア 授業規律の確立 イ 習熟度別・進路別少人数授業の拡充および授業公開・研究協議の充実 エ ICT 機器を活用した授業展開</p>	<p>(1) イ・全教職員で、挨拶の励行、遅刻・欠席の減少、毛染め・ピアスの一掃に努める。 ウ・いじめ・差別をしないさせない意識を醸成し、安全で安心な学校づくりに努める。</p> <p>(2) ア・ベル着・机上整理・授業集中を徹底させるため、教員や管理職が校内巡回を積極的に行う。また、生徒集会など機会ある毎に注意喚起を行い、意識の向上を図る。 イ・数学Ⅱ(e コース・生物医療系・理系)、英語Ⅱと英 BE (1 年次) で、全クラス 1 クラス 2 展開の授業を実施し、苦手意識のある生徒を減らし、生徒の授業満足度を高める。 ・5 月の PTA 総会時に保護者対象の授業公開を実施する。また、11 月に 2 週間行っている教員間の公開授業 (地域へ周知) を継続実施する。 エ・教員向け ICT 研修を充実し、プロジェクターや書画カメラの活用教員を増やすことにより、生徒の興味、関心をさらに引き出す授業を展開する。</p>	<p>(1) イ・遅刻件数 2,000 件以下 (H27:2514)、あいさつ運動 12 回以上(H27:12 回) ウ・生徒向け学校教育自己診断の人権肯定回答率 77%以上 (H27:75%)</p> <p>(2) ア・生徒の授業アンケート質問 1「必要な予習や復習ができています」と質問 2「授業中は集中して取り組んでいる」の学校平均をそれぞれ 0.15 ポイント上げる。(H27 質問 1 は 2.74、質問 2 は 3.25) イ・生徒向け学校教育自己診断の「授業はわかりやすい (H27:65%)」「進捗が適切 (69%)」「教え方の工夫 (72%)」の項目をそれぞれ 3%上げる。 ・教員の授業公開 100 授業以上実施 (H27:80 授業) エ・教員向け ICT 機器に関するアンケート「活用している」90%以上 (H27:約 80%) ・生徒向け学校教育自己診断の「教え方の工夫(H27:72%)」の項目を 75%以上にする。</p>	<p>(1) イ・遅刻件数は減少したものの 2080 件であった。次年度もさらに取組みを進める。(△) あいさつ運動は 12 回実施 (○) ウ・肯定回答率は 75%と 1 ポイント減少した。日々の働きかけ、研修内容等について再考する。(△)</p> <p>(2) ア・質問 1 は 2.75、質問 2 は 3.27 と 0.01、0.02 ポイント向上したが目標は達成できず。更に意欲の向上を図る取組みを実践したい。(△) イ・「進捗は適切」は 71%と 2 ポイント向上したが、「授業はわかりやすい」は 61%と 4 ポイント減少、「教え方の工夫」は 66%と 6 ポイント減少であった。授業改善の取組みを進める。(△) ・教員の授業公開は 100 授業であった。(○) エ・教員の活用率 92.9%であった (◎) ・「教え方の工夫」66%と 6 ポイントの大幅減少であった。ICT 機器導入 3 年目を迎え、視覚教材のさらなる活用とともに、授業改善の取組みを進める。(△)</p>

府立河南高等学校

<p>2 特色づくりの推進による普通科改革校としての地歩固め</p>	<p>(1) 特色づくりの取り組み充実 ア eコースの充実、生物医療系生徒および第2学年による大学連携授業の実施 イ 勉強合宿の実施および多様な取組みによる学習時間の増加 ウ 資格取得の推進 エ 特別講演会の開催</p> <p>(2) 国際交流および国際理解教育の推進 ア グローバル人材の育成 イ 国際貢献に取り組む生徒の育成</p> <p>(3) 地域および他校種連携の拡充 ア 河南講座、クラブ活動における地域および中高交流の進展</p> <p>(4) 災害に強い学校づくり</p>	<p>(1) ア・eコースにおける体験学習・高大連携・発展学習の充実を図る。 ・生物医療系の大阪府立大学との連携授業、2年生全員による大阪大谷大学の1日授業体験の実施により、進学意識向上を図る。 イ・全学年で勉強合宿を実施。また、Buzz学習や土曜自習室、平日の講習補習、サポート講習を充実し、学習時間の増加を図る。 ・社会で通用する知識・教養を身に付けさせ、積極的に政治参加する態度を醸成する ウ・実用英語検定1・2年生は全員受験。 エ・世界で活躍する人を年に1回招く。(オリンピックのメダリスト、同時通訳者、各国の領事など)</p> <p>(2) ア・国際交流委員会が中心となり、交換留学(受入・派遣各5名以上)や海外からの訪問団の受け入れを積極的に行い、コミュニケーション能力、問題発見・解決能力などの育成を図る。 イ・環境教育の一環としてエコキャップ運動を継続し、環境問題への理解を深め、ポリオワクチンの供給などを通して、国際貢献に取り組む生徒を育成する。</p> <p>(3) ア・河南講座やクラブ交流等において、生徒主体の地域連携の強化を図る。</p> <p>(4) ・避難訓練マニュアル・大地震発生時アクションカードなどを充実させる。また、防災環境を整備し、災害に強い学校づくりに取り組む。</p>	<p>(1) ア・eコース生の国公立大学・教育系大学への進学者60%以上。(H27:46.2%) ・国公立大学10人、関関同立120人(H27:国公立5人、関関同立108人) イ・土曜自習室への参加生徒を750人以上にする。(H27:662人) ・サポート講習を徹底し、2学期中間考査の3科目以上の欠点保有者を各学年10人以下にする。(H27:1,2年それぞれ15人程度) ウ・英検準2級以上の合格者100人以上(H27:85人) エ・特別講演会後のアンケートの肯定的回答90%以上を維持する(H27:95%)</p> <p>(2) ア・短期留学生4名以上の派遣および受入(H27:4名)、長期留学生1名以上の派遣および受入(H27:2名派遣、1名受入)の継続 イ・ユニセフと連携し30人以上のポリオワクチンの供給。(H27:26人分)</p> <p>(3) ア・河南講座4講座以上(H27:4講座)、クラブ活動による中高交流4クラブ以上(H27:3クラブ)実施する。</p> <p>(4) ・生徒向け学校教育自己診断の「災害時の行動を理解している(H27:70%)」の項目を3%以上引き上げる。</p>	<p>(1) ア・eコース生の希望者54.3%、進学者40.0%で達成できなかった。(△) ・国公立大学6名、関関同立79名で、大学への進学実績は目標に届かなかったが、医療系等では例年以上の進路実現を果たした。(△) イ・参加生徒数は562人であった。生徒の意識調査では、利用したい生徒が30%と6ポイント減少していることも踏まえ、在り方を含め検討する。(△) ・各学年とも目標を達成している。(1年5人、2年10人)ただ、自己診断結果ではサポート講習の人数を増やしてほしいという声もある。(○) ウ・12月現在で116人が合格(○) エ・アテネ五輪代表の室伏由香氏を招き実施。アンケートでは「期待にそうものであった(98%)」「良かった(90%)」と肯定的回答が高く、人生に影響を与えるものであったかについては「夢の実現のため諦めずに頑張る(39%)」「前向きに取り組もうと思う(41%)」と80%の生徒が肯定的回答である。(○)</p> <p>(2) ア・短期留学生8名派遣、9名受け入れ。長期留学生1名派遣及び受け入れであった。生徒の国際交流への意識が高くなっており、次年度以降も継続する。(○) イ・生徒保健委員会が中心となり、25800個回収し、ワクチン30人分を供給することができている。CO2削減など環境問題への理解を深め、ワクチン供給を通じ国際貢献に寄与できたと考える。(○)</p> <p>(3) ア・河南講座は4講座実施。次年度も地域交流の一環として実施する。クラブによる中高交流は11クラブ約120回実施され中学校から好評を得ている。(○)</p> <p>(4)「災害時の行動を理解している(73%)」と3ポイント向上した。大地震を想定し本校の現状にあった防災教育を推進していく。(○)</p>
<p>3 生徒の実態に即したキャリア教育体制の確立</p>	<p>(1) 生徒・保護者の思いを的確把握 ア 面談および生徒支援の充実</p> <p>(2) キャリア教育ワーク集の充実とキャリア教育体制の確立</p>	<p>(1) ア・面談などを積極的に行うとともに、中学校訪問等を通して、生徒情報の共有と生徒支援に努める。</p> <p>(2) ・進路・学年・キャリアカウンセラーなどが連携して本校独自の「キャリア教育ワーク集」を充実させ、高校3年間を見通した系統的なキャリア教育体制を確立する。</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断の「相談に応じてくれる先生がいる(H27:55%)」「担任以外でも気軽に相談できる(53%)」を3%引き上げる。</p> <p>(2) ・生徒向け学校教育自己診断の「進路の情報をよく知らせてくれる(H27:81%)」「進路について考える(86%)」を2%引き上げる。</p>	<p>(1) ア・「相談に応じてくれる先生がいる(52%)」と3ポイント減少。「担任以外でも気軽に相談できる」は33%と20ポイントの大幅減少となった。支援委員会を中心に現状にあった教育相談体制を再考する。(△)</p> <p>(2) ・「進路の情報をよく知らせてくれる」78%、「進路について考える」82%とそれぞれ3ポイント、4ポイント減少した。(△)</p>